

リハセンだより



第51号



認知症診療部新設にあたって

病院長 小畑 信彦

皆様、お元気でお過ごしでしょうか。病院長の小畑でございます。今回は平成二十四年四月に行いました機構改革の中で、認知症診療部新設についてご紹介させていただきます。

少子高齢化に関わる問題が取り上げられるようになってから時間が経ち、この問題に対して妙になれてしまったような雰囲気の今日この頃です。しかし、この問題は決して軽視してはいけない問題です。認知症の問題は医療領域だけではありません。認知症の方の社会的処遇（運転免許、財産の保護等）をどうするのか、居住環境をどう確保するのか（単に福祉・介護施設を充実させるだけでなく保護機能を持つ一般賃貸住居を充実させるべきか等）など地域社会全体を巻きこむ難問が次々に生じてくる問題です。当然、その中で認知症医療はいくつもの形で認知症に関わる必要が生じます。具体的には、予防活動への協力、初期の鑑別診断、治療・処遇方針への助言、周辺症状（精神的に落ち着かなくなる症状全体の呼び方です）の改善、かかりつけ医の先生方との連携（定期評価、助言等）他が挙げられます。このような状況の中で、我々のセンターは高齢化に関する医療として脳卒中等のリハビリテーションと並んで認知症医療についても中心テーマとして診療に力を入れております。

我々のセンターは、認知症医療に専念する医師二名を中心にしてリハビリテーション科、精神科の両方の技術を合わせ、また、MRI、CT、SPECT/CT（脳の機能を形態と結びつけながら評価可能な撮影装置）を揃えた充実した画像診断機能を活用して認知症診療に力を入れてきました。今春は組織を改編し認知症診療にかかわる組織機能を一本化し整備することとしました。これにより、認知症診療がより効率化され、より充実した診療展開が可能となると期待しております。また、他の医療・介護機関などの連携、患者さん、ご家族からの相談へ対応するケースワーク機能も整理し、医療相談連携科として一元化しました。これによって、より迅速で幅の広いご相談、連携が可能になり、認知症診療部新設の効果がより高まると考えております。皆様のご相談、ご利用をお待ちしております。

理学療法室から

「ロボットスーツ HAL」を導入しました。

当センターでは、より高度なリハビリテーションを提供できるよう、2012 年 5 月 15 日から「ロボットスーツ HAL」を導入することになりました。

「ロボットスーツ HAL (Hybrid Assistive Limb)」とは、人間の身体機能を拡張・補助することのできる世界初の装着型ロボットです。主な対象者は足に障害を持つ方や脚力の弱くなったご高齢の方で、HAL を装着することで、歩行や階段の上下り下りが今までより楽に行えるようになります。

「ロボットスーツ HAL」は全国の病院や施設で活用されていますが、秋田県では当センターが初の導入になります。出来るだけ多くの方に使用していただきたいと思っていますので、興味のある方は理学療法士にご相談ください。



臨床検査科から

HbA1Cが院内で測定できるようになりました。

糖尿病は慢性的に血糖値が高くなる病気です。HbA1cは過去 1～2 ヶ月間の血糖値の平均を反映し、糖尿病の診断・治療にも使われます。当院では今までこのHbA1cの測定を外部の検査機関に依頼しておりましたが、今回院内で測定できるようになりました。HbA1cが院内で測定できることで次の受診日まで待つことなく治療に反映できるようになりました。また、2012 年 4 月よりHbA1c検査の国際標準化に伴い新しい報告値A1C (NGS P) の値が使われます。これまでのものからおよそ 0.4%高くなります。2012 年 3 月までの基準範囲はHbA1c (JDS) 4.3%～ 5.8%でしたが、信基準値はA1C (NGS P) 4.6%～ 6.2%となります。



放射線科から

MR I (磁気共鳴画像) の紹介

Q1. どのような装置ですか？

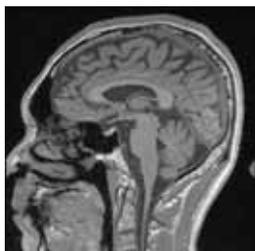
A1. 強い磁場で体から出る電波を利用して体の構造を検査する機械です。CTと同じような検査ですが、放射線による被曝はありません。体の色々な断面を造ることができます。

Q2. どんな検査につかわれますか？

A2. ほとんどの場所の検査に使用されます。造影剤という薬を注射しなくても、血管を描き出すことができます。頭部ではアルツハイマー型認知症で萎縮する海馬の観察にも使われます。

Q3. 注意する点がありますか？

A3. 強い磁気を使いますので、体にペースメーカーや手術の金属が入っている方は残念ながら、検査ができません。また、CTに比べ検査時間が長く、機械自体が大きな音を出すので耐えるのがつらい方もいらっしゃると思います。リハセンでは認知症の検査や、腰痛の脊椎の検査、足の血管の閉塞の検査などに使われております。



頭部



脊椎



下肢動脈



4 月から医療相談連携科に変わりました。

4 月から医療相談室と地域医療連携科が統合し「医療相談連携科」が新設となり相談窓口を一本化しました。

医療相談連携科長：倉田 晋
 看護師長：鈴木文子
 リハビリテーション科担当：高橋敏弘、中島暢子
 精神科担当：佐藤 篤、戸堀由貴子
 認知症担当：船木 聡、佐々木智子、戸嶋直子

当センターのリハビリテーション科、神経・精神科、もの忘れ外来は予約制になっております。現在受診している医療機関がある場合は紹介状をご準備いただき診療予約をしたうえで来院して下さい。

また、当センターでは FAX による入院予約申込み（リハビリテーション科のみ）も受付けております。初めて FAX による入院予約を希望される場合は「医療相談連携科」までご相談下さい。

(外来受診・FAX 入院予約に関する申し込み・問い合わせ先)

018-892-3751 (代表) 医療相談連携科まで

外来診療担当表



●リハビリテーション科・もの忘れ外来・高次機能障害外来診療担当表

	月	火	水	木	金
リハ外来(新患)	荒巻 晋治	横山 絵里子	佐山 一郎	細川 賀乃子	佐山 一郎
リハ外来(再来)			下村 辰雄		
もの忘れ外来	佐藤 隆郎 (神経精神科)	下村 辰雄 (リハ科)	佐藤 隆郎 (神経精神科)	下村 辰雄 (リハ科)	横山 絵里子 (リハ科)
高次脳機能障害外来					下村 辰雄 (リハ科)

●神経・精神科外来診療担当表

	月	火	水	木	金
新患	①猪股 良之	成田 恵理子	小畑 信彦	①伏見 雅人	倉田 晋
	②兼子 義彦			②徳永 純	
再来 1	倉田 晋	小畑 信彦	兼子 義彦	高橋 祐二	兼子 義彦
再来 2	成田 恵理子	高橋 祐二	徳永 純	倉田 晋	小畑 信彦
再来 3		佐藤 隆郎	猪股 良之	猪股 良之	成田 恵理子

● 外来診療受付時間

午前 8 : 30 ~ 11 : 00

栄養科より

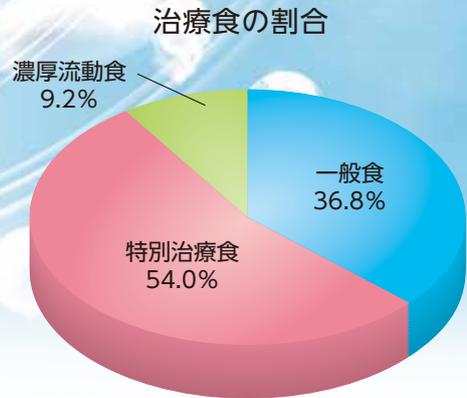
リハセンの治療食、栄養補助食品について紹介します

リハセンの治療食

食事療法を必要とする方に

疾病の改善、悪化防止のために食事療法を必要とする患者様に対し、当センターでは特別治療食を提供しています。糖尿病食、脂質異常症食、痛風食、貧血食、減塩食、肝臓食、膵臓食、潰瘍食、腎臓食など疾病に合った治療食を、患者様個々に合ったエネルギー量で提供しています。

入院生活は、生活習慣や食習慣を見つめ直す良い機会となります。生活習慣病のある患者様には、食事の適量（視覚）を知り、風味・味付け（嗅覚、味覚）に慣れ、栄養指導（聴覚、触覚）では、疾病とその食事に関する正しい知識を身につけていただきます。五感をフルに活用し、退院後の食事療法へ向けて支援しています。



摂食・嚥下障害のある方に

食事の形態に配慮が必要な患者様は約 4 割を占めています。当センターの形態は大きい順に一口大きざみ／きざみ／極きざみ／ブレンダー食・ムース食の 5 種類に分類され、さらに、これらにとろみをつけることができます。患者様それぞれの嚥下機能の状態に応じて、食事全体あるいは部分的にとろみをつけることも可能です。

リハセンだより第 48 号に「在宅者のための嚥下評価短期入院」の案内が掲載されましたが、入院中のカリキュラムには、管理栄養士による『安全でおいしく食べるためのアドバイス』も組み込まれていますので、是非活用していただければと思います。



行事食とムース食

献立表	
○炊き込みご飯	○みつばの味噌汁
○のし鶏のふきあんかけ汁	
○菜の花のおひたし	
○クリームあんみつ	



食事摂取量が低下している方に

入院中の患者様は時に食事摂取量が低下します。発熱や消化器症状、認知症状、精神症状の悪化などその原因はさまざまです。一般的な目安として食事の半分以上食べていればまずいいだろうと思われがちですが、実際 1 日 1400kcal 必要な方が半分しか食べない日が続くと、体重が 10 日で 1kg 減少してしまう計算になります。栄養状態が悪くなると、免疫力が低下し感染症に罹りやすくなり、筋肉量が減少して寝たきりになってしまいます。したがって食欲が低下しているときでも、できる限りエネルギーを補給することが重要です。当センターでは 2 種類のハーフ食を用意し、食事を減量して不足分を栄養補助食品等で補給しています。また患者様の嗜好に合わせて対応できるよう栄養補助食品を各種取り揃えています。

在宅でも、少量で高エネルギーの食べやすいものなどを食事にプラスすることにより、エネルギーの損失を最低限に抑えることができるので参考にしてください。

ハーフ食

	朝 食	昼 食	夕 食
ハーフ食Ⅰ	食事全体を 3/4 量に減量 + 80kcal のゼリー	食事全体を 3/4 量に減量 + 80kcal 程度の食品※ ¹	食事全体を 3/4 量に減量 + 100kcal のスープ + 100kcal のゼリー
ハーフ食Ⅱ	食事全体を 1/2 量に減量 + 80kcal のゼリー + 200kcal の飲料	食事全体を 1/2 量に減量 + 80kcal 程度の食品※ ¹	食事全体を 1/2 量に減量 + 100kcal のスープ + 100kcal のゼリー

※¹ 温泉卵、冷や奴、卵豆腐などのどごし良く食べやすいもの

当センターで採用している栄養補助食品

メイバランス mini (明治) 	200kcal/125ml 少量高エネルギーの飲料で、栄養のバランスが良い。	セルティ (ホリカフーズ) 	200kcal/200ml 甘すぎず飲みやすい飲料で、温めても冷やしても飲める。栄養のバランスが良い。
Jucio ミニ (三和) 	200kcal/125ml 少量高エネルギーの飲料で、栄養のバランスが良い。すっきり飲みやすい。	エンジョイゼリー (クリニコ) 	300kcal/220g 高エネルギーのゼリーで、栄養のバランスが良い。
グルコパル (ネスレ) 	160kcal/125ml 糖吸収に配慮しており、糖尿病の方におすすめ。栄養のバランスが良い。	プロッカ (ニュートリー) 	80kcal/70ml 高タンパク質ゼリー、牛乳 1 本分のタンパク質とカルシウムを含有。脂肪は含まない。

医療サービス向上
委員会から報告します

平成23年度、 リハセンの医療療養環境は こう変わりました

リハセン医療サービス向上委員会は、センターを利用される患者さん・家族のご意見を伺いながら皆様が満足出来る医療・療養環境をめざして、その実態把握と意見交換、病院当局への要望・提言を行っております。平成 23 年度は、通年で行う「退院時アンケート調査」、8 月に行った「外来患者満足度調査」などの結果もみながら以下の療養環境改善や機器整備・導入を行いました。

●主に院内環境整備に関わる事項

- (1) 神経精神科外来ロビーチェア更新（ベンチ式から一人掛け椅子へ）
- (2) 5 病棟ホール・ロール・スクリーン設置（遮光）
- (3) 3 病棟公衆電話間仕切り設置（利用時のプライバシー保護）
- (4) 院内廊下コーナーミラー設置（主に車椅子利用者向け）
- (5) 機能訓練室への見やすい案内表示板設置
- (6) 「リハセンドック」利用者専用ロッカー設置（外来玄関脇）
- (7) バス停留所雨よけ設置（震災などで壊れておりました）
- (8) リハセン案内表示（屋外看板）4カ所新設とリニューアル
- (9) クリスマス用イルミネーションLED ライト追加購入（師走のアトリウムを飾る風物詩となりました）



神経精神科外来ロビーチェア

●主に療養環境に関わる事項

- (1) 褥瘡（床ずれ）対策用マットレス購入（3 病棟以外の全病棟）
- (2) ベット脇キャビネット（床頭台）更新（4・5 病棟、鍵がかかり患者さん個人で貴重品管理が可能となりました）
- (3) 「ナースコール」更新（4・5・7 病棟、ナースコール利用時のトラブルが解消しました）
- (4) 栄養科フードスライサー更新（治療食の準備に必須の器械です）

●医療機器更新・購入に関わる事項

- (1) シーメンス社製 1.5 テスラ MRI（脳卒中や脊損患者さんの病巣確認や生活習慣病などの合併症管理に威力を発揮しています）
- (2) 自動グリコヘモグロビン分析計（HbA1c が院内で即座に検査可能となりました）
- (3) 超音波膀胱画像診断装置（4 病棟、脊損患者さんなどの残尿を簡単にみることが出来ます）
- (4) 経鼻内視鏡（主に胃瘻造設を目的とする内視鏡検査総時間を短縮するための追加購入です）
- (5) 医用テレメーター・ベットサイドモニター（各病棟の老朽化した機器の更新です）

●主に医療サービス・広報宣伝に関わる事項

- (1) 頸部頸動脈超音波検査を臨床生理検査の一環で実施する体制を整備
- (2) リハセン紹介映像（プロモーションビデオ）作製（医療スタッフのリクルート、一般住民・県民むけの紹介ビデオです）
- (3) 病院ロゴ入りトートバックおよびクリアホルダー作製（バックは売店で有料販売、ホルダーは対外的診療業務に使用します）
- (4) リハセン・ホームページ、リニューアル（独立行政法人全体で統一イメージとなりました）

（文責：医療サービス向上委員会・委員長、佐山一郎）



バス停留所雨よけ設置



ベット脇キャビネット



フードスライサー更新



医用テレメーター・ベットサイドモニター



経鼻内視鏡



コーナーミラー設置



公衆電話間仕切り設置

神経・精神科

○ 徳永 純 先生

秋田大 H16 年卒。精神保健指定医。総合病院精神科を中心とした勤務歴があり、豊富な経験を有しています。精神科専門医の取得を目指しつつ、中堅として若手医師の指導にもあたっています。

○ 猪股 良之 先生

秋田大 H20 年卒。精神保健指定医と精神科専門医の取得に向けて精神科医療全般に渡って研修中。臨床業務の合間をぬって、秋田大学で学位取得に向け研究活動も行っています。

新任医師の紹介

4月から当センターに赴任した医師を紹介します。

リハビリテーション科

○ 佐藤 純一先生

帝京大 H22 年卒、秋田市出身。国立秋田高専在学中に体調を崩し療養されたことをきっかけに、基礎医学研究を志し杏林大学保健学部進学。その後同医学部での研究、奈良先端科学技術大学院大学研究科、東京理科大学理学部の卒業等を経て帝京大医学部入学。卒業後、秋田大学医学部附属病院での2年間の研修を終え、H24.4月よりリハ科へ入局されました。今後は、各病棟での研修を行い、専門性を高めてゆく予定です。趣味：ピアノ

リハセンのホームページをリニューアルしました

4月1日、地方独立行政法人秋田県立病院機構本部・秋田県立脳血管研究センターとともに、ホームページをリニューアルいたしました。

本部・脳研・当センターでレイアウトを統一し、色使いをパンフレットに合わせました。採用情報に関しては、機構全体で1つにまとめてあります。また、パソコン向けだけでなく、スマートフォン、携帯電話向けのページも設けました。トップページにアクセスすると、環境（機種）を判別するようになっています。

当センターの色は緑で、V I (ヴィジュアル・アイデンティティ) の「キズナライン」も盛り込んでいます。

まだ古い内容も残っていますが、順次改訂して参ります。

アドレスは、パソコン・スマートフォン・携帯電話共通で、<http://akita-rehacen.jp> です。

右のQRコードを読み込めば、アクセスできます。





秋田県立リハビリテーション・精神医療センター(リハセン)

〒019-2413 秋田県大仙市協和上淀川字五百刈田 352
 電話 018-892-3751 FAX 018-892-3757
 URL <http://akita-rehacen.jp>

電話で受診日と受診時刻をご予約ください。
 現在、他の病院などにかかっている方は、
 紹介状(診療情報提供書)をご用意ください。

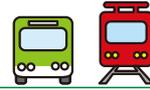
電話：018-892-3751

秋田市からは車が便利!! 秋田中央IC～(協和IC経由)～病院玄関まで17分以内



●電車とバスでリハセンに来るには

平成22年4月現在



1. JR 奥羽本線、羽後境駅で下車。
2. 徒歩で羽後交通境営業所に向かいます。(約3分)
3. 羽後交通境営業所から淀川線でリハセン経由「福部羅行き」に乗ります。
4. 羽後交通境営業所からリハセンまで約10分。リハセン玄関前のバス停で下車。



バス時刻表 (平成24年4月1日現在)

淀川線(境～協和小学校～リハビリセンター～中逢田～下川口～福部羅)					
境営業所	坊台	リハビリセンター	坊台	リハビリセンター	境営業所
発	発	着	発	発	着
8:10	8:17	8:20	7:35	—	7:52
9:10	9:17	9:20	9:15	9:18	9:28
▲10:20	10:27	10:30	—	9:25	9:35
11:14	11:27	11:30	▲11:25	11:28	11:38
▲12:20	12:33	12:36	12:25	12:28	12:38
14:04	14:17	14:20	▲13:33	13:36	13:46
15:04	15:17	15:20	15:25	15:28	15:38
▲16:04	16:17	16:20	16:25	16:28	16:38
17:14	17:27	—	▲17:25	17:28	17:38
18:34	18:47	—	18:25	18:28	18:38

▲印は日曜日・祝日運休

所要時間と料金

JR上り	JR下り	バス
秋田駅～羽後境駅 約25分 運賃480円	大曲駅～羽後境駅 約24分 運賃400円	境営業所～リハセン前 約10分 運賃310円

タクシーをご利用の場合

小山ハイヤー 018-892-3049 など

秋田県立リハビリテーション・精神医療センター診療情報

診療科目：リハビリテーション科、神経・精神科、放射線科
 診療日：月～金(祝日・12月29日から1月3日を除く)
 受付時間：午前8:30から11:00まで

病床数：一般病床:50床、療養病床:50床、精神病床:200床

●センターの特徴：365日毎日リハビリ訓練
 脳ドック・物忘れ外来・精神科デイケア
 画像診断(CT・MRI・SPECT)
 日本医療機能評価機構認定

電話相談のご案内

リハセンへの受診や入院に関することについて、
 電話での相談に応じております。
 お気軽にどうぞ。 電話 018-892-3751

発行 秋田県立リハビリテーション・ 精神医療センター

〒019-2413
 秋田県大仙市協和上淀川字五百刈田 352
 電話 018-892-3751
 発行責任者 小畑 信彦